

投稿		北アルプス 南日本オートルート	
山名		<b>北ノ俣岳～双六岳～犬ノマ乗越～新穂高</b>	
		下土狩～飛越トンネル	
山行名		春山合宿 A 隊	報告者 渡辺昭二
セールスポイント		桜 温泉+ビール 山上の小部落 落の臺 初夏の息吹	
コース タイム 及び	4月30日(土) 天候(晴)	下土狩10:45～富士I.C11:20～諏訪湖S.A13:30～ 松本I.C13:50～沢渡「さとう」前2:56～平湯料金所 15:10～打保16:26～飛越トンネル17:20	
走行距離		310km	
参加者	コーチ	富岡 進 (59)	なかなかのアプローチ、テントでの夕食は大満足。
	CL	後藤隆徳 (54)	地酒の「〇〇〇」はサイコーだった。
	渉外	長岡浩一 (41)	ボルシチとご飯がうまかった!
	会計料	加藤秀子 (51)	新穂高・飛越トンネルまでのコースは初めて。観光気分!
		渡辺昭二 (39)	天の川のもと テントでボルシチ・ふきのとう。
第一日目	<p><b>春</b>の雨がしとしと降る中、ホーミーで富士へ。僕の参加は昨日決定した。後藤さんは「最悪、当日でも…」と云ってくださっていたので甘えさせていただく。</p> <p>富士に着くと雨はやんでいった。今日は北に向かうにつれて晴天になると、予報は告げていた。北の空は明るい。車窓からは生温い風が入ってくる。富士山はガスの中だ。皆の表情は明るく、希望に満ちていた。</p>		
	<p><b>諏</b>訪湖S.Aではゴールデンウィークを実感する車の量。小さい子供を見ると先ほどまでまとわりついて『一緒にいく!』と僕を困らせた4才の娘が思い出される。皆のおかげで幸せだ。山にはきれいなピンク色の桜。</p>		



何回も花見ができありがたいものだ。松本ICを出ると畑を耕す人々。春真っ盛りである。加藤さんはかつて「まんのわ」で耕したことがあるそうだ。線路にはたんぽぽ。果樹畑にはリンゴの白い花、もものピンクの花が咲き誇っていた。

**安**房トンネルを抜けると一気に眩いばかりの太陽が照り付ける。笠ヶ岳のピークがピラミッド型で美しい。途中硫黄のかおりのほのかに漂う露天風呂で五月の風を受けビールをいただく。山行前に温泉に入ると、がぜんパワーがみなぎってくる。

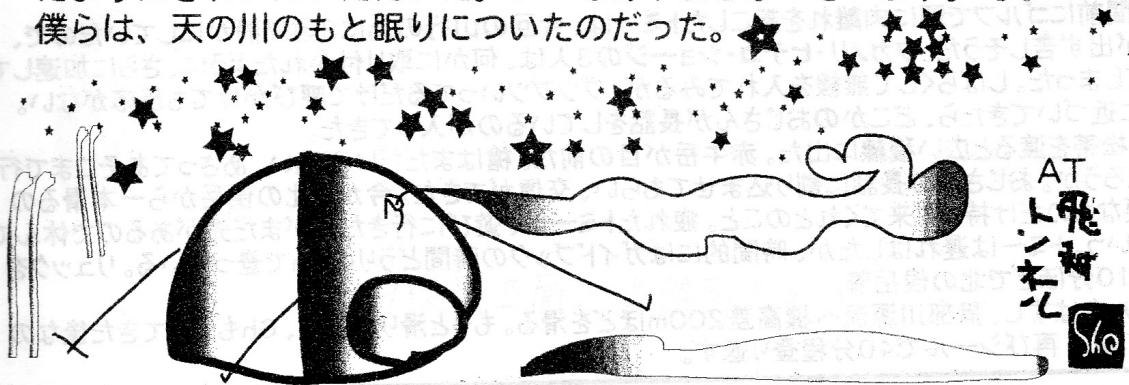
**打**保神岡停車場線の入口はとても狭かった。しだいに広くなるが急峻な屈曲路で時折ダンプとすれ違う。加藤さんの運転は安定して高度をかせいで行くが、なんせ1000mも上がるのだ。途中セコンドで上がらず、ローで引っ張る。途中の部落の民家の庭先はきれいに整えられ、芝桜の白やピンクの花が目をはく。一部廃坑の村の様だった。

(注・1)

**真**つ暗なトンネルは車1台しか通れない幅だった。側壁は鉄板がはられていて無気味だったが、抜けると風景は一転して穏やかなものとなる。空は明るく、遠く薬師方面の山々が見えてくる。標高900mほどの所にまとまって部落がありオドロキだ。茅葺き風の民家もあった。ビニールハウスでほうれんそうを作っていることは、後藤さんが豊倉商店(酒屋)のお婆ちゃんへの調査で判明した。飛騨の濁り酒を1升購入する。ここでほぼ部落は終わり。路の脇の白樺は幹が大きく曲がり、雪の多さを物語っていた。

**雪**で道路が狭くなり、とうとう倒れた電柱で行き止まりとなる。しかしそんなことで挫ける後藤さんではなかった。スコップを使いTOMYと2人で1m程動かし、最後に加藤さんの怪力で一気に加速！手では動かず、かなりの重量があったのだがやる～！雪も多くなり、歩いて明日のルートの偵察。夏道よりもトンネルの右を登る方がより良いと判断。

**テ**ントを張り、ビール／にごり／赤ワインと僕らが御機嫌になるなか加藤さんはボルシチを作ってくれる。前回のハンバーグと野菜のデミグラソース仕立てにも勝るとも劣らない、イ～イ香りと味！皆、皿をなめたようにきれいにいただいた。いつもありがとうございます。そして(注2)僕らは、天の川のもと眠りについたのだった。



AT  
ト飛  
ンネ  
たて  
Sho

注・1 神岡鉦山

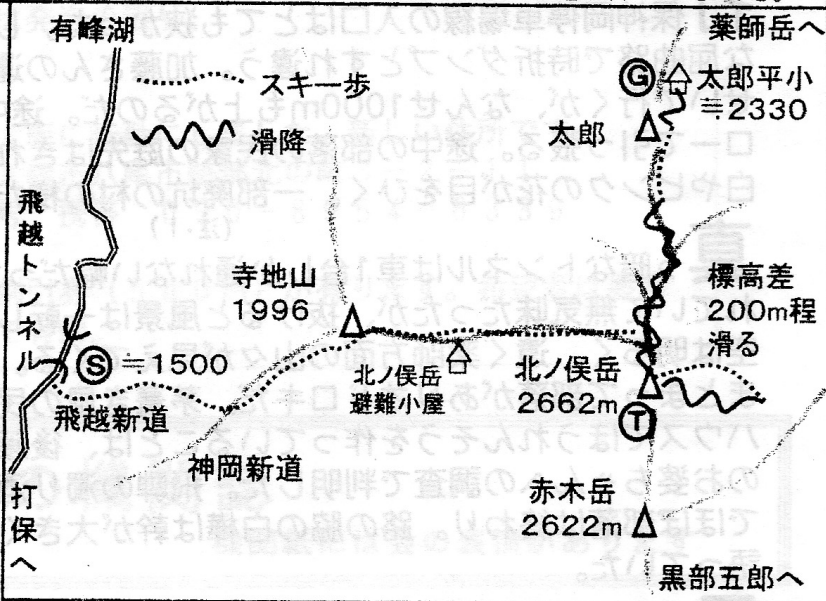
注・2 CLが本当の皿を用意した

投稿

山名	ミニオートルート 1日目 太郎平小屋へ		報告者	長岡浩一		
2001年5月1日	起床2:30~飛越トンネル出発4:25~飛越新道~神岡新道~主稜線10:15~					
コース及びタイム	北ノ俣岳10:40-11:20~1本滑る~北ノ俣岳12:20~ピアガーデン~太郎平小屋13:30					
標高差	△S	1500m	~ T	2662m (+200m) ≙ 1362m	体力度	1・2・3④・5・6
	▽T	2662m	~ G	2330m (+200m) ≙ 532m	技術度	1・2③・4・5・6
走行距離	~ ≙ km			展望度	1・2・3・4⑤・6	

参加者	タカノリ	北ノ俣岳の西大斜面を一度ヤリたい。
	トミー	標高2000mから500mの登りはパタタ。太郎平小屋までの滑りは満足。
	ヒデコ	北ノ俣岳での遊びの滑りはスキー冥利に尽きる。
	ショージ	北ノ俣岳までボードをかつぎ、槍を見ながらの滑降に満足。
コー1	1000m以上登った後、あたりまえのように滑って遊ぶ山屋の心意気、いつまでも。	

昨夜は1台の車も上がって来なかったようで静かな夜だった。朝食のキムチチャーハンは、2時半起床という悪条件でも食欲をそそる刺激的な味。たくさん食べられ、今日のパワーとなる。テントを撤収し、車で飛越トンネル手前100mくらいまで移動。この先は雪がなくてスキーに乗り換えとなる。支度をしているうちに薄明るくなりシール登行で出発。トンネル左側に夏道の標識があるが、右側の沢が雪で埋まっているのでそこを渡って急な尾根(飛越新道)に取り付く。雪面は凍っていて硬く、スプリットボードのショージは初っ端から苦労している。



じきに緩やかになり、ずいぶんと低い送電線をくぐる。また急登になって見晴らしのよい所に出ると、左前方に剣岳がとんがって見え、右には遥かに御岳・乗鞍岳まで見える。良い天気であれしい。この先、樹林の中の小さなアップダウンを繰り返して、徐々に高度を上げていく。前方にすばらしい大斜面が見えるが、掃りにこのアップダウンを通ると思うと、大斜面の魅力も半減という気がする。(今回はここを下らないが)

寺地山は南斜面をトラバースして通過。ここから、わずかな距離だが右側が切れた尾根のアップダウンとなり、ヒデコはスキーをリュックにつける。これを過ぎると、主稜線へと続く気持ちの良い大斜面の登りとなる。大きい。登っても下ってもスキーの為にあるようなすばらしい斜面。これなら下部のアップダウンを差し引いても、滑る価値はある。スプリットボードも気持ちよさそうにシール登行している。左前方には薬師岳が見えるが雪が少ない。真左には越中鎌崎山がとでもりっぱ。後方遥かには白山。前後左右キョロキョロよそ見しながら、二本の足を前後に動かしていれば、埋まることもなく登っていける山スキーという道具は本当にすばらしい道具だ。

3週間前にゴルフで腰に肉離れを起こしたトミーは、今回の山行の為に3週間静かにしていたので、調子が出ず苦しそうだ。タカノリ・ヒデコ・ショージの3人は、何かに取り付かれたように、さらに加速して行ってしまった。しばらくして無線を入れてみるが、プツプツいってただけで呼びかけても反応がない。稜線に近づいてきたら、どこかのおじさんが長話をしているのが入ってきた。

這い松帯を渡ると広い稜線に出た。赤牛岳が目の前だ。槍はまだだいぶ遠い。あさってあそまで行けるだろうか。おじさんの長話に割り込ませてもらい、交信ができた。今から北の俣岳から一本滑るので必要なものだけ持って来てくれとのこと。疲れたトミーは、遊びに行きたいがまだ先があるので休んでいるという。トミーは遅れはしたが、時間的にはガイドブックの時間通りの6hで登っている。リュックを置き、10分ほどで北の俣岳着。

シールをはずし、黒部川源流へ標高差200mほどを滑る。もっと滑りたいが、6hも登ってきた後なのでがまんし、再びシールで40分程登り返す。

リュックのところへ戻り、展望ピアガーデンとする。この美味さにこの景色、たまりません。リュックを閉めようとする、もう1本ビールがでてきて、再度乾杯をする。誰か私のリュックに1本余分にいった？

太郎平小屋までは広い稜線に行く。尾根がいくつか分かれていて、ガスされると苦労しそうだ。太郎山を緩く登って、小屋へ滑り込む。

太郎平小屋はゴールデンウィークだがすいていて、食堂横のこたつでゆっくりする。まだ14時。例によって、ビールとお酒をたくさん注文し、ぽっちゃりしてかわいいオネエさんにラーメンを頼む。しばらくすると、杉並の三尾さんが来てびっくり。双六のほうから来て、明日飛越トンネルへ下るといふ。これはお互いちよどいいと、車を沢渡へ回送していただくことになった。お酒1升を差し入れていただく。また、自然を滑る会の伊藤さんと さんにも会う。伊藤さんはエベレストに登ったこともある方だそうで、我々と目つきが違う。

小屋の夕食は、ご飯がとてもおいしかった。20時30分就寝。

## 本日の反省

- ・無線機はパーティーがばらけたらすぐスイッチをいれたほうが良い。
- ・一本滑りに行くときにもスコップ・ゾンデは持っていったほうが良いのでは。(まあ今回はなだらかな斜面だったが、何が起こるかわからないので)
- ・サブザックを今回私は省略してしまったが、遊びに行く時やはり必要だ。



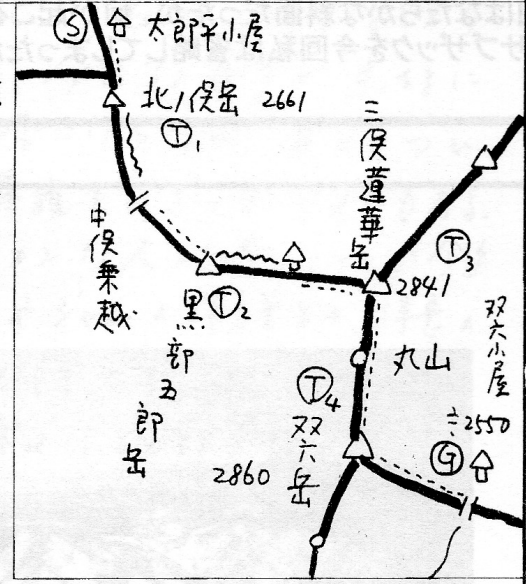
北/伊岳西面の大斜面をのぼる 5/1

※上リ 標高差 = 太郎平小屋 ~ 北ノ俣岳 = 321m . 中俣乗越 ~ 黒部五郎岳 = 310m . 丸山 ~ 三俣蓮華岳 = 491m . 丸山 ~ 双六岳 = 100m

山名	太郎平小屋～黒部五郎岳～三俣蓮華～双六小屋		報告者	後藤隆徳
この山のセーフポイント	ニツの厳しい上りと —ツの難しい下り			
5月2日(水) コース及びタイム	起床 5:30/出発7:05～北ノ俣岳8:20～中俣沢のコル8:50～黒部五郎岳10:30～ 黒部五郎小屋11:25～三俣蓮華岳13:50～双六岳16:00～双六小屋16:40(泊)			
天候	晴れのち雪	体力度	1・2・3・4・5・⑥	
標高差	△S 太郎小屋～T 双六小屋 = 1222 m	技術度	1・2・3・4・5・⑥	
	▼ 211 + 410 = 621 m	展望度	1・2・③・4・5・6	

今日のふとこぼ	タカ	アルプスはスケールが大きい。さすが日本オートルートだ。
	トミー	黒部五郎のカール、やった。滑った。感動!
	ヒデコ	スキーを始めて5年。実質3年。五郎カールを滑った私の足を褒めて欲しいネ
	コーイチ	北アルプスの山はでかい!でもスキーは速い。
	ショージ	カールに飛び込み、落ちるような最初のターンに酔う。

二日目  
昨夜の三尾さん達との交流の余韻に浸りながら気持ちの良い布団の中で目覚めた。ショージが窓を開けて『薬師岳が見える』の報告に『ヨッシャいただき』と思った。滑る会の岡田・伊藤礼造(エベレスト登頂者)氏は今日、双六小屋に泊まる予定といひ5時半に出ていった。(しかし何故か、丸山のトラバースで迷い、双六小屋には到着せずビバークした。ヘー。こんな人でも!)  
小屋の食事は6時半ではやや遅く気になるがトイレは事前に済ませなるべく早く出発する。小屋で見送る人は『双六小屋ですか。大変ですネ』と口を揃える。まあ天気さえもては問題はないと言ひ聞かせる。小屋前で飛越トンネルに下る三尾さん達と記念撮影。天気は今のところマズマズだが、三尾さんがIモードでみたら午前は良、午後からLが近づき雨又は雪の予報だった。これはかなり正確で実際そうだった。



北ノ俣岳に登りウォーミング・アップを済ませ、中俣沢のコルまでコーイチの言う『日本で一番長い斜滑降』に移る。気温が高く、既にこの時間で雪が重く滑りは悪い。硬いうちに快適に行きたかった。ジワジワとガスが上がってくる。黒部五郎の急登にかかる。資料ではここは歩きだが重荷を考えシールで行く。もの凄い急登だ。しかし今日のショージは全く問題ない。ボードの場合、スキーよりかなり直線的に登れる。やはり朝日岳の「学習」が効いているようだ。頂上はパスして左の肩に向かい、いよいよ今山行最大の山場の「黒部五郎カールの滑降」に入る。肩から覗くと確かに上部40m程は40度以上の完璧な雪壁だった。まあ私達には此処から直に滑るのは「落下」に近いエクストリუმの世界だ。

ヒデコは思わず「.....」と目が点になってしまった。とにかく安全第一である。こんなアルプスの山中で怪我をしたらタダではすまない。良く観察すると①先行者は最初の急傾斜20m程は階段歩行で下っている。②右に行くほど急になるので右には行かない。(直前に滑

った人は右に右に行ってしまう、どんだん急になり結局下る機会を逸し相当苦労したようだ)  
③ハイマツを越え尾根を左にいくと傾斜が落ち滑り易い。がわかった。私がトップで①で行ってみる。10m程下り楽になった所でヒデコを待つが、トミーと二人でハイマツを越え左の方へ逃げた。こちらの方が断然よい。コーイチとショージは横滑りで10mをこなし、ショージは落下に近い速度でアッという間にカールに消えていった。

コーイチは暫し辺りをうかがい、おもむろに左の斜面に逃げ巧みなターンでスキーの先陣を切った。全員とにかく無事にカールに着いた。凄い壁だった。今までの経験の中で最も急だったに違いない。カールを大胆に決めてビールをいただき大休止。思わず笑みがこぼれる。ヒデコは『やった。やった』とやや興奮気味だった。

五郎小屋に向かうといよいよガスが上がってきた。グッドタイミング。とにかく五郎の滑りだけはガスって欲しくなかった。今日はそれだけを願った。小屋で大休止後、いよいよ三俣蓮華にかかる。肩に出るとにわかには雪が降ってきた。天気予報どおりだった。蓮華もガイドによると上部は急で歩きになっていたが、20m程歩いただけでシールで登れた。丸山を越え急下降して双六岳に向かうがルートもハッキリせず疲労もピークに達し苦しい所だった。加えて完全なホワイト・アウトで右も左も分からない。五郎からずーと一緒だったボーダーも四苦八苦。一部急でスキーで登れず一旦下り、双六を巻こうと試みるが所詮は無理だった。ここは基本に戻りアイゼンをつけ双六を越える。結局、北面も雪がなくスキーは使えなかったので結果的にはこれで正解だった。

冬は強風地帯であろう。賽の河原みたいな所を越えて深雪の雪壁を下ると小屋まで10分の道標を見つけた。これで一安心である。トミーも疲れた身体に鞭打って頑張る。彼にはコーイチがずっと付いていてくれた。大雪の中双六小屋に着いた。ボーダーも小屋泊りに変更したようだ。夕食後、明日の相談をする。トミーは明日下山したいようだ。ヒデコは脛のスジが痛い。ショージは滑り本位でいきたい。槍まで8時間はちょっと。コーイチは槍に行きたいが皆の意見に従う。タカは6:4で新穂高だった。やはり全体的には初めてのアルプスの山スキーで疲れもあったし天候も悪かった。

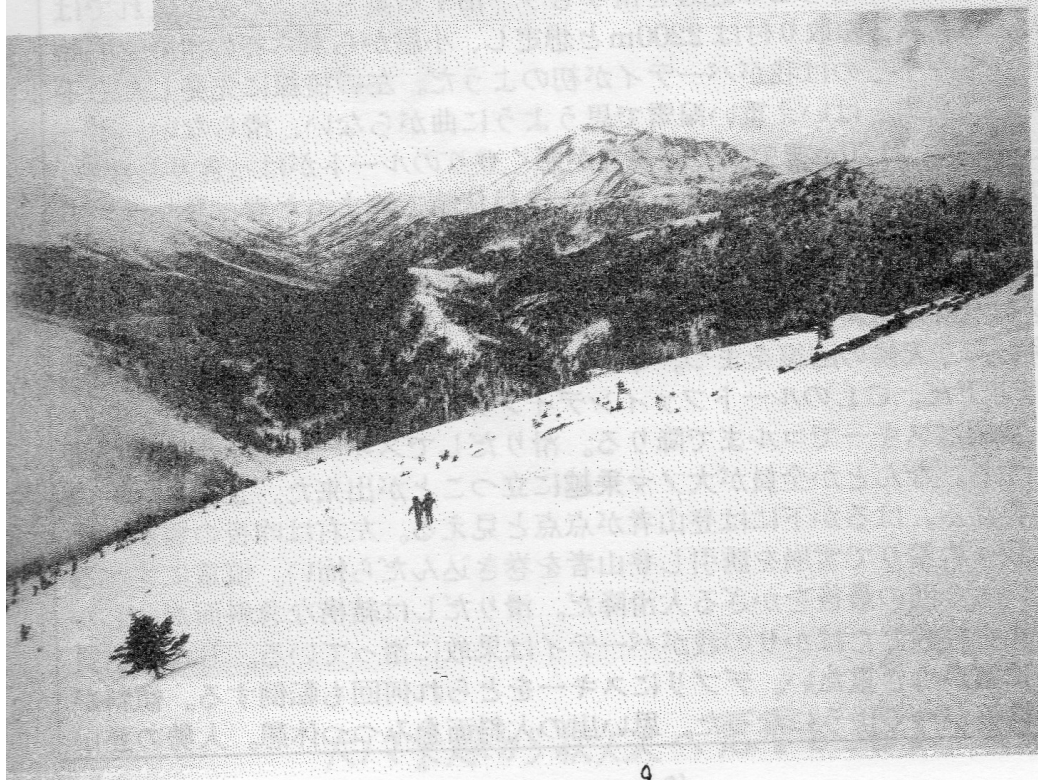
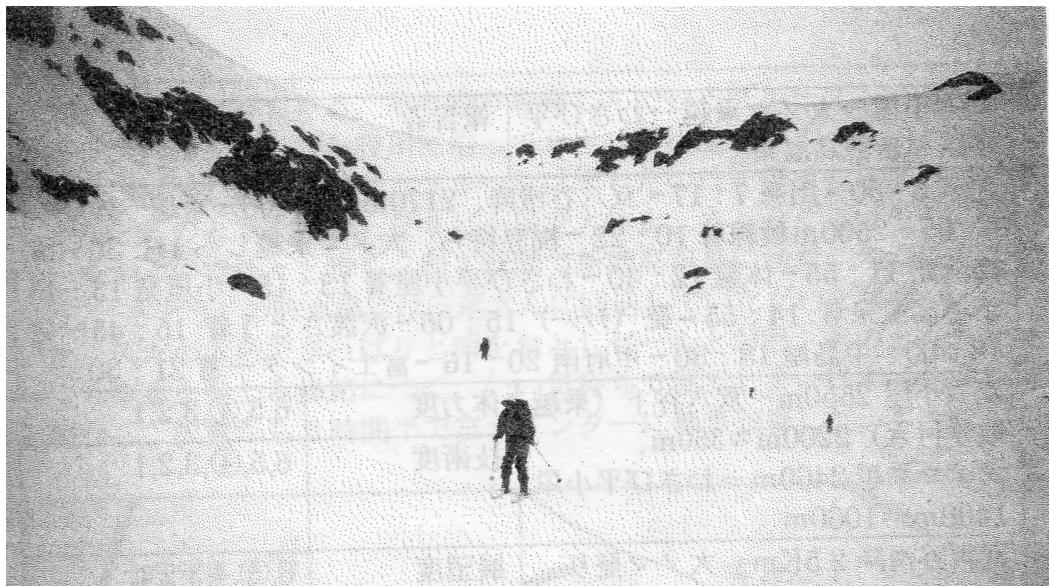
ここは捲土重来を期し潔く新穂高に下る事にした。しかし結果的には翌日悪天候でやはり槍は無理だった。飲んだ熱燗がうまかった。もう少し飲みたかったが人気があり売り切れだった。外は季節外れの大雪がシンシンと降っていた。

## 今日の反省

1. 小屋での朝食は時間的にやや無理がある。
2. 危険箇所では意思の統一が要。
3. シールでの急な下りの研究。
4. 双六岳の巻きは案は基本的でなかった。楽をしようとしてはいけない。
5. 双六小屋がうるさくて参った。
6. 予定はあくまで槍だから、日程は確保しておく。『早く帰りたい』と言われると行動が萎縮する。



(中) 薬師を後に黒部五郎の  
登り (下) 黒部五郎カールの滑



(上) 黒部五郎カールの滑り  
 (中) カールにてますは一服  
 (下) 薬師バックに三保重車登り

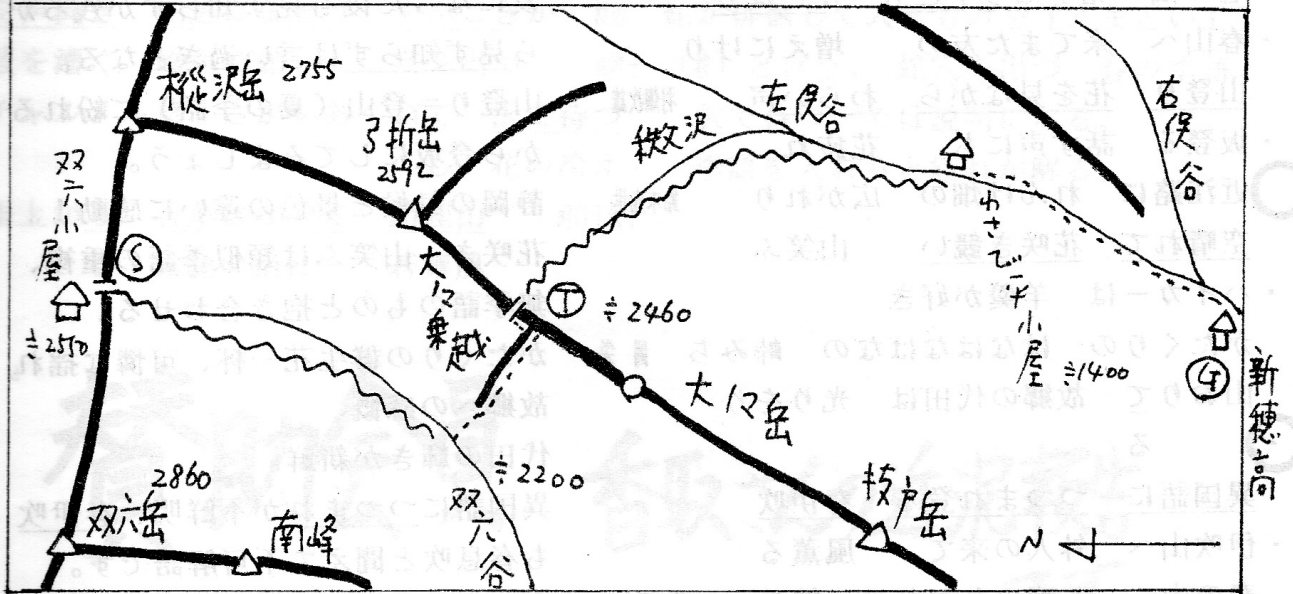


# 投稿

山名	双六小屋→大ノマ乗越→わさび平 小屋→新徳高温泉	報告者	富岡進
01年05月03日 コースおよび タイム	起床 5:50 - 出発 7:17 - 双六谷滑降、2170m着 8:06 - 乗越への登り 9:05 - 2500m稜線着 10:22 - 視界待ち、大ノマ乗越しへ 11:30 - 滑 降開始 11:55 - 休憩 12:40 - わさび平小屋着 13:15 - 小屋発 13:45 新徳高温泉着 14:55 - 発 (タクシー) 15:05 - 沢渡さとう着 15:45 - 発 18:00 中島屋 18:30 - 甲府南 20:16 - 富士インター着 21:30		
標高差	双六小屋 2550m - 双六谷下 (乗越 取り付き) 2200m = 350m、 大ノマ乗越 2460m - わさび平小屋 1400m = 1060m	体力度	6,5,④,3,2,1
		技術度	6,5,④,3,2,1
走行距離	双六谷滑降 2.5Km、大ノマ登り 0.5Km、滑降わさび小屋まで 8 Km 新徳高温泉まで徒歩 5 Km	展望度	6,⑤,4,3,2,1
今日の一言	後藤	ホワイトアウト～一瞬の時間の幸運、なだれの恐 怖、いろいろありました。	
	加藤	加藤も上達したなの一言で今回の山行は大成功 やったね。	
	長岡	今回も地図読み勉強させて頂きました。	
	渡辺	ホワイトアウトで大ノマ乗越付近にいたのにもか かわらず、ビバーク覚悟!	
	富岡	ホワイトアウトでも仲間のいる安心感。悪雪に苦 しめられながらも楽しい滑降だった。	
	反省	更なる軽量化が必要 雪崩に対する細心の注意	

小屋番の雪降ろしの音で目をさます。昨日からの降雪は止んだが、30センチぐらい積もったようだ。風はないが天候は曇り、視界は良くない。この天候では西鎌尾根・槍は無理、断念できる。ピーカンならこの近辺を滑りもう一泊する案もあったが、これでは下るしかない。大ノマ乗越への取り付は2200mと想定し、小屋から双六谷の滑降を開始する。今日このルートを下るのは我がパーティが初のような。左の稜線に先発した岩手のパーティがみえる。新雪とはいえ重い湿雪で思うように曲がらない、滑らない。ボードの渡辺は苦労している。2170mまで下るが視界が悪く登りのルートがはっきりしない。10年ほど前に来たはずだが全く覚えがない。あのときは快晴で締まった雪、登りはツボ足、完全にルートができていた。沢の曲がり具合や高度から少し開けた雪崩のあとがある斜面が登りのルートらしい。雪崩に備えスコップ、ゾンデはすぐ取り出せるようにする。少しのぼり返し木立の急斜面にとりつく。1時間一寸の苦闘で2500mの稜線付近に出た。雪庇の危険もあり天候の回復をまつ。幸い1時間ほどでガスが切れ<sup>陽</sup>も差してきた。乗越は30mほど下だ。CLのルートファインディングは正解だった。またガスらないうちにと下る。富岡はスキーでコルまで降りる。滑りだしでスキーによる小規模な雪崩がおきドキツとする。なんとか全員が大ノマ乗越に立つことが出来た。正面に今回の日標であった槍が見える。はるか下には登山者が点点と見える。左右は昨夜の雪が大きく雪崩れている。我々の滑りで雪崩を誘引し登山者を巻き込んだら怖い。慎重にすべることにする。いよいよ今回の最後をかざる大滑降だ。滑りだしは結構な急斜面だ。しかし黒部五郎のカールを経験したばかりの我がパーティは果敢に滑っている。しかし雪質は最悪。ストックに雪が付き重たい。デブリにスキーをとられ何回も転倒する。傾斜がゆるくなり何とか格好がつくようになった。思い出の大斜面をみつつ休憩。人勢の登山

者、スキーヤーが上ってくる。そり滑りを楽しんでいるグループもいる。ワサビ小屋泊まりだろうか。ここからは左股川に沿ってわさび平小屋まですべる。ところどころデブリで快適さは損なわれたものの、スキーをはずしたのは一箇所のみだった。そんな場所ではちゃんと露のとうを摘む。ワサビ小屋で大休止、さっそくビールで乾杯。ここからはスキーをかついで淡々と歩く。約1時間で新穂高温泉に到着。すぐにタクシーで沢渡に向かう。「さとう」の駐車場には三尾さんに回送していただいた我がパーティの車がまっていた。久々の人浴でさっぱりと垢をおとしビールとお酒、露のとうも茹でてもらう。ゆっくり食事を楽しみ帰路につく。いい気持ちで寝てしまい松本インターに入った時刻は記録なし。沢渡から3時間半で富士インターに無事到着した。本当に充実したGW山行だった。



大12乗越から枝戸沢へ悪雪を滑る //